

リスクコミュニケーションに関する環境省取組について

「第23回化学物質と環境に関する政策対話」資料

令和 7 年12月18日
環境省 大臣官房 環境保健部 化学物質安全課



準備会合で紹介した環境省取組事例

- 11月26日の準備会合では、リスクコミュニケーションに関する環境省の取組3事例を紹介し、アンケートにより委員からそれぞれに対するご意見をいただいた。

I 化学物質アドバイザー制度

- 化学物質に関する専門知識や説明能力等を有する方が、市民や事業者、行政を対象に中立的な立場で環境リスクに関する情報提供やアドバイスを行うもの。
- 資格制度ではなく、「化学物質」「環境リスク」「環境関連法規」及び「リスクコミュニケーション」に関する知識とスキルが一定レベル以上であることを認定し派遣する制度。
- 登録数は35人、派遣数は年間27件（NPO法人や公益法人、行政・自治体、企業・業界団体に派遣）※令和6年度実績（2024.4～2025.2時点）

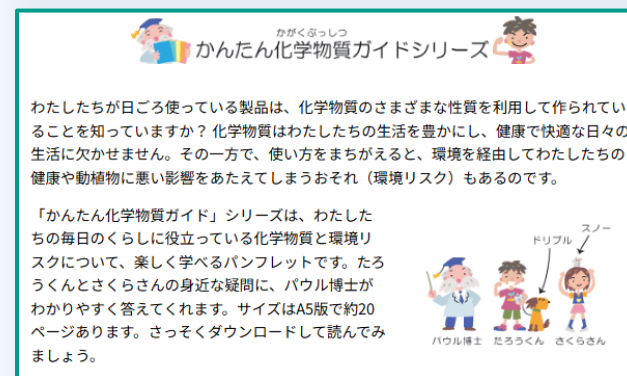


III こども若者★いけんぷらす

- こども家庭庁のこども・若者意見反映推進事業（通称「こども若者★いけんぷらす」）と連携し、「あなたにとって化学物質はどんなもの？～環境問題と化学物質について考える～」というテーマで、20代以下のこども若者に対してアンケート及び対面での意見聴取を実施した（令和6年11-12月）。
- 実施結果はこども家庭庁HPで公表

(URLリンク) <https://ikenplus.cfa.go.jp/announcements/1veyhm1yq3vys6pi>

II かんたん化学物質ガイドシリーズ



かんたん化学物質ガイドシリーズ. Text: わたしたちが日々使っている製品は、化学物質のさまざまな性質を利用して作られていることを知っていますか？化学物質はわたしたちの生活を豊かにし、健康で快適な日々の生活に欠かせません。その一方で、使い方をまちがえると、環境を經由してわたしたちの健康や動植物に悪い影響をあたえてしまうおそれ（環境リスク）もあるのです。 「かんたん化学物質ガイド」シリーズは、わたしたちの毎日のくらしに役立っている化学物質と環境リスクについて、楽しく学べるパンフレットです。たろうくんとさくらさんの身近な疑問に、パウ博士がわかりやすく答えてくれます。サイズはA5版で約20ページあります。さっそくダウンロードして読んでみましょう。

(URLリンク)
<https://ikenplus.cfa.go.jp/announcements/1veyhm1yq3vys6pi>



テーマ	あなたにとって化学物質はどんなもの？～環境問題と化学物質について考える～
担当省庁	環境省
テーマ説明	化学物質やそれを使った製品は、わたしたちの日常生活にとっても身近で便利な存在です。しかし、使い方次第ではわたしたちの健康や生活環境・自然環境に悪い影響を与えてしまうおそれのあるものもあります。そのため、つくる人、つかう人といった立場の異なる人どうしが化学物質に関する正確な情報を共有しながら、お互いにコミュニケーションを取ることが、安全で安心な社会をつくるために重要です。化学物質に関する情報発信や化学物質そのものについて、みなさんの考えていることや感じていることをお聞きすることで、よりよい情報発信の方法やよりよい化学物質に関する政策につなげていきたいと考えています。
参加対象者	【アンケート】「こども若者★いけんぷらす」の「ぶらすメンバー」に登録している方うち、小学4年生以上の方 【対面】「こども若者★いけんぷらす」の「ぶらすメンバー」に登録している方うち、高校生年代以上の方
開催日時・参加者数	【アンケート】 ・開催日時：令和6年11月18日（月）～12月11日（水） ・回答件数：88件 【対面】 ・開催日時：令和6年12月14日（土）14:00～16:00 ・参加者数：18人（1班…高校生年代5名、2班…高校生年代4名、3班…大学・大学院年代5名、4班…社会人年代4名）

環境省取組に対するご意見のまとめ（アンケート内容を環境省事務局が集約もの）



I 化学物質アドバイザー制度

II かんたん化学物質ガイドシリーズ

III こども若者★いけんぷらす



効果

- ・リスクコミュニケーション推進に有効

活用

- ・活用機会を検討したい
- ・活用継続中 & 継続したい

内容

- ・小学校高学年から中学生に知ってもらいたい内容
- ・継続を希望

効果

- ・化学物質管理教育の評価ツール、モニタリングツールとして期待
- ・本会合で紹介希望



制度・利用法改善

- ・利用者ニーズに更に応えられる制度へ進化必要
- ・中立的な立場の専門家として関与することを制度化
- ・実績が縮小傾向のため、制度の抜本的見直し必要
- ・人材がいるがまだ活用されていない印象

活動の場

- ・アドバイザーが活躍できるイベントが現在減少
- ・活躍の場が限られている
- ・人材がいるのに、がまだまだ活用

認知度

- ・低い認知度
- ・認知度向上が必要

人材

- ・講師の研修が必要
- ・登録者数が35人と少数

内容

- ・テクニカルな内容が含まれシリーズがない
- ・情報が古くリニューアル必要
- ・PFASなど新しいテーマも取り上げるべき
- ・ターゲット層の明確化必要
- ・設置場所の工夫が必要

対象

- ・ターゲット層の明確化必要
- ・親世代に向けた内容も欲しい

活用

- ・HPダウンロードの他にも公共施設にも設置するとPRにつながる
- ・利用を広げるとより効果発揮

開催法

- ・参加者が少ないのが課題
- ・開催回数が少ない
- ・全国展開の方法はないか？

認知度

- ・知らなかった、低い認知度

アウトプット

- ・出された意見の取り扱いが不明確